

# 注目！がん看護における最新エビデンス



**宮下光令** 教授

東北大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつりのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業、臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

今回は、2014年7月に発表された我が国の無作為化比較試験による、がん治療医に対するコミュニケーション・スキル・トレーニング (Communication Skill Training : CST) の効果についての報告を紹介します<sup>1)</sup>。

この研究の目的は、がん治療医が、がん患者の悪い知らせを伝える時に患者の意向に沿ったコミュニケーションができるようになるためのCSTを行うことによって、医師のコミュニケーション技術が良くなり、実際の患者の不安や抑うつが減少するかを検討したものです。

2006～2007年に国立がん研究センターに勤務する30人のがん治療医（中央値38歳、33～54歳、専門は外科17人、内科14人、放射線科1人）を、模擬患者を用いた2日間のCSTを受ける群 (CST群) と受けない群 (non-CST群) に無作為に割りつけました。そして、介入の前後でそれぞれの医師が担当した実際の患者（合計1,192人）に不安や抑うつ、コミュニケーションに対する満足度、医師への信頼感などを調査しました。

その結果、CST群の医師は、悪い知らせの伝え方 (P=0.001)、サポート的な環境設定 (P=0.002)、安心感と情緒的サポート (P=0.011) と、non-CST群の医師より高く患者から評価されました (図1)。さら

## コミュニケーション能力は トレーニングで向上する！ がん治療医に対する 悪い知らせを伝える際の コミュニケーション・ スキル・トレーニングの 無作為化比較試験

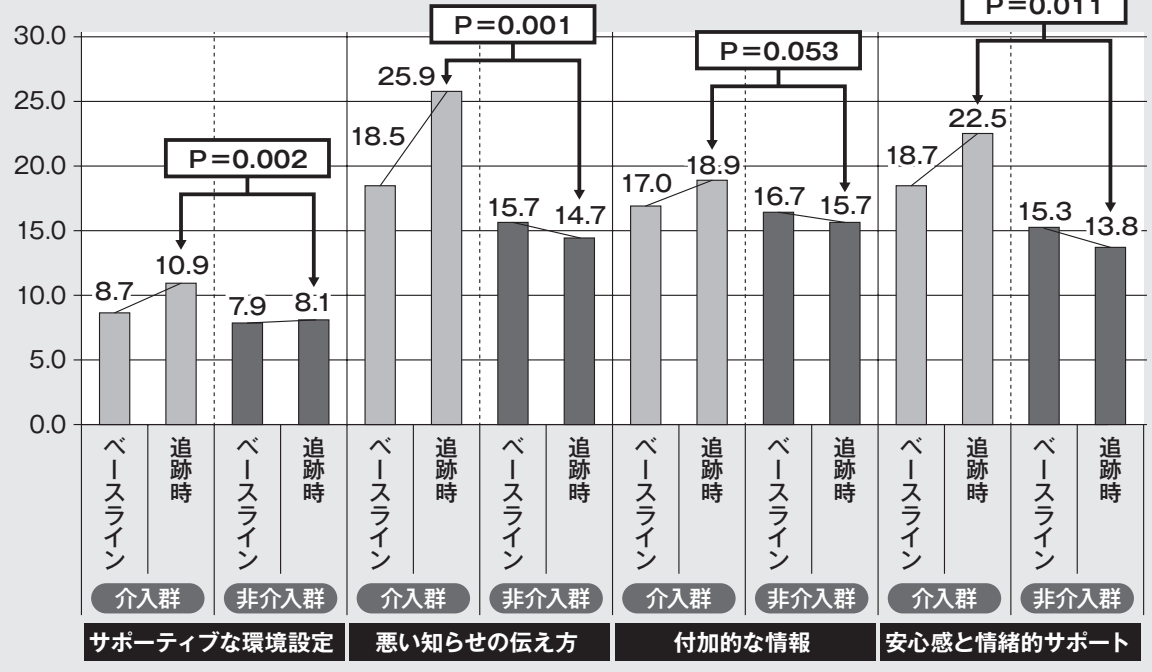
Fujimori M, Shirai Y, Asai M, Kubota K, Katsumata N, Uchitomi Y. Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news: a randomized controlled trial. J Clin Oncol. 2014 Jul 10;32(20):2166-7.

に、CST群の医師は自分のコミュニケーション能力に自信を持ち (P=0.001)、CST群の医師が担当した患者は抑うつが有意に少なく (P=0.027)、医師への信頼が有意に高いという結果でした (P=0.009) (図2)。

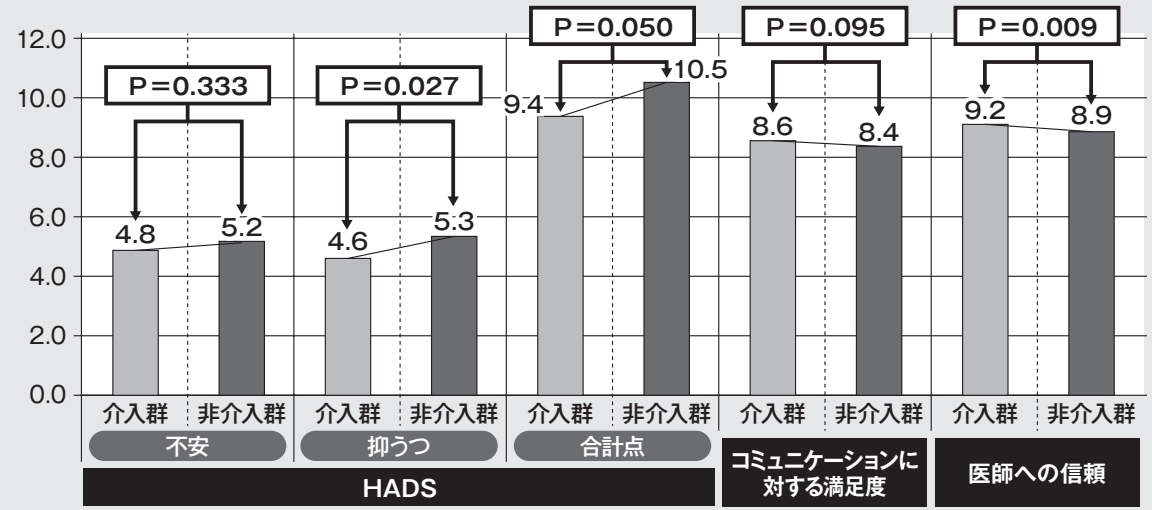
CSTに関しては、2013年にアメリカのCurtisらのグループが、研修医とNurse Practitionerを対象とした無作為化比較試験の結果、コミュニケーションの質はCST受講によって変わらず、CST受講群の方が患者の抑うつが増加したと報告しています<sup>2)</sup>。

今回のFujimoriらの報告はCurtisらと異なり、対象は研修医ではなく、臨床経験が15年程度の治療医でした。また、介入の方法は日本人に合わせてつくられたSHAREプロトコルをベースにしています。アメリカと日本のベースとなるコミュニケーション・スタイル、医療文化の違いなどもあると推察されます。コミュニケーションは文化的な背景の影響を強く受けることが予想されますので、Fujimoriらによって日本人に対するエビデンスが得られたことの意義は大きいと思われます。我が国でも、医師や看護師を対象とした

《図1》 医師のコミュニケーション技術の変化



《図2》 患者の不安・抑うつ、コミュニケーションに対する満足度、医師への信頼の比較



CSTが行われるようになってきました。自らのコミュニケーション技術をもっと向上させたいと思う看護師は少なくないでしょう。コミュニケーション技術は2日間の研修で向上し得るということは、私たち看護師にとっても大きな励みとなる結果ではないでしょうか。そして、一緒に働く医師には、ぜひ受講を勧めたいものですね。

引用・参考文献

- 1) Fujimori M, Shirai Y, Asai M, Kubota K, Katsumata N, Uchitomi Y. Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news: a randomized controlled trial. J. Clin. Oncol. Jul 10 2014;32(20):2166-2172.
- 2) Curtis JR, Back AL, Ford DW, et al. Effect of communication skills training for residents and nurse practitioners on quality of communication with patients with serious illness: a randomized trial. JAMA. Dec 4 2013;310(21):2271-2281.